

第 1 章

概 要

注) 単位未満は四捨五入しているため、合計の数字と内訳は必ずしも一致しない。

第1 人口動態の概要

青森県の令和2年の出生、死亡、自然増減、死産、周産期死亡、婚姻及び離婚の概要は表1に示すとおりである。

表1 人口動態の年間発生件数（青森県）

区分	実数			率			平均発生間隔	
	令和2年	令和元年	対前年比	令和2年	令和元年	対前年比	令和2年	令和元年
出生	6,837	7,170	△ 333	5.5	5.8	△ 0.3	1° 17' 05"	1° 13' 18"
死亡	17,905	18,424	△ 519	14.5	14.9	△ 0.4	29' 26"	28' 32"
乳児死亡	18	23	△ 5	2.6	3.2	△ 0.6	488° 00' 0"	380° 52' 10"
新生児死亡	15	15	0	2.2	2.1	0.1	585° 36' 00"	584° 00' 00"
自然増減	△ 11,068	△ 11,254	186	△ 9.0	△ 9.1	0.1	…	…
死産	145	168	△ 23	20.8	22.9	△ 2.1	60° 34' 46"	52° 8' 34"
自然死産	87	88	△ 1	12.5	12.0	0.5	100° 57' 56"	99° 32' 44"
人工死産	58	80	△ 22	8.3	10.9	△ 2.6	151° 26' 54"	109° 30' 00"
周産期死亡	32	36	△ 4	4.7	5.0	△ 0.3	274° 30' 00"	243° 20' 00"
妊娠満22週以後の死産	17	25	△ 8	2.5	3.5	△ 1.0	516° 42' 00"	350° 24' 00"
早期新生児死亡	15	11	4	2.2	1.5	0.7	585° 36' 0"	796° 21' 49"
婚姻	4,032	4,601	△ 569	3.3	3.7	△ 0.4	2° 10' 43"	1° 54' 14"
離婚	1,915	2,009	△ 94	1.55	1.62	△ 0.07	4° 35' 13"	4° 21' 37"
区分	令和2年	令和元年						
合計特殊出生率	1.33	1.38						

(全国)

区分	実数			率			平均発生間隔	
	令和2年	令和元年	対前年比	令和2年	令和元年	対前年比	令和2年	令和元年
出生	840,832	865,239	△ 24,407	6.8	7.0	△ 0.2	00' 38"	00' 34"
死亡	1,372,648	1,381,093	△ 8,445	11.1	11.2	△ 0.1	00' 23"	00' 23"
乳児死亡	1,512	1,654	△ 142	1.8	1.9	△ 0.1	5° 48' 34"	5° 00' 41"
新生児死亡	704	755	△ 51	0.8	0.9	△ 0.1	12° 28' 38"	10° 56' 11"
自然増減	△ 531,816	△ 515,854	△ 15,962	△ 4.3	△ 4.2	△ 0.1	…	…
死産	17,286	19,454	△ 2,168	20.1	22.0	△ 1.9	30' 29"	26' 48"
自然死産	8,192	8,997	△ 805	9.5	10.2	△ 0.7	1° 4' 20"	56' 49"
人工死産	9,094	10,457	△ 1,363	10.6	11.8	△ 1.2	57' 57"	50' 43"
周産期死亡	2,674	2,955	△ 281	3.2	3.4	△ 0.2	3° 17' 06"	2° 55' 16"
妊娠満22週以後の死産	2,122	2,377	△ 255	2.5	2.7	△ 0.2	4° 8' 22"	3° 40' 23"
早期新生児死亡	552	578	△ 26	0.7	0.7	0.0	15° 54' 47"	14° 16' 02"
婚姻	525,490	599,007	△ 73,517	4.3	4.8	△ 0.5	01' 00"	00' 54"
離婚	193,251	208,496	△ 15,245	1.57	1.69	△ 0.12	02' 44"	02' 31"
区分	令和2年	令和元年						
合計特殊出生率	1.33	1.36						

注:1) 青森県の基礎人口は令和2年が1,232,227人、令和元年が1,240,000人である。

注:2) 全国の基礎人口は令和2年が123,398,962人、令和元年が123,731,176人である。

注:3) 用語の説明及び比率の算出方法については、第2章人口動態統計「利用上の注意」を参照されたい。

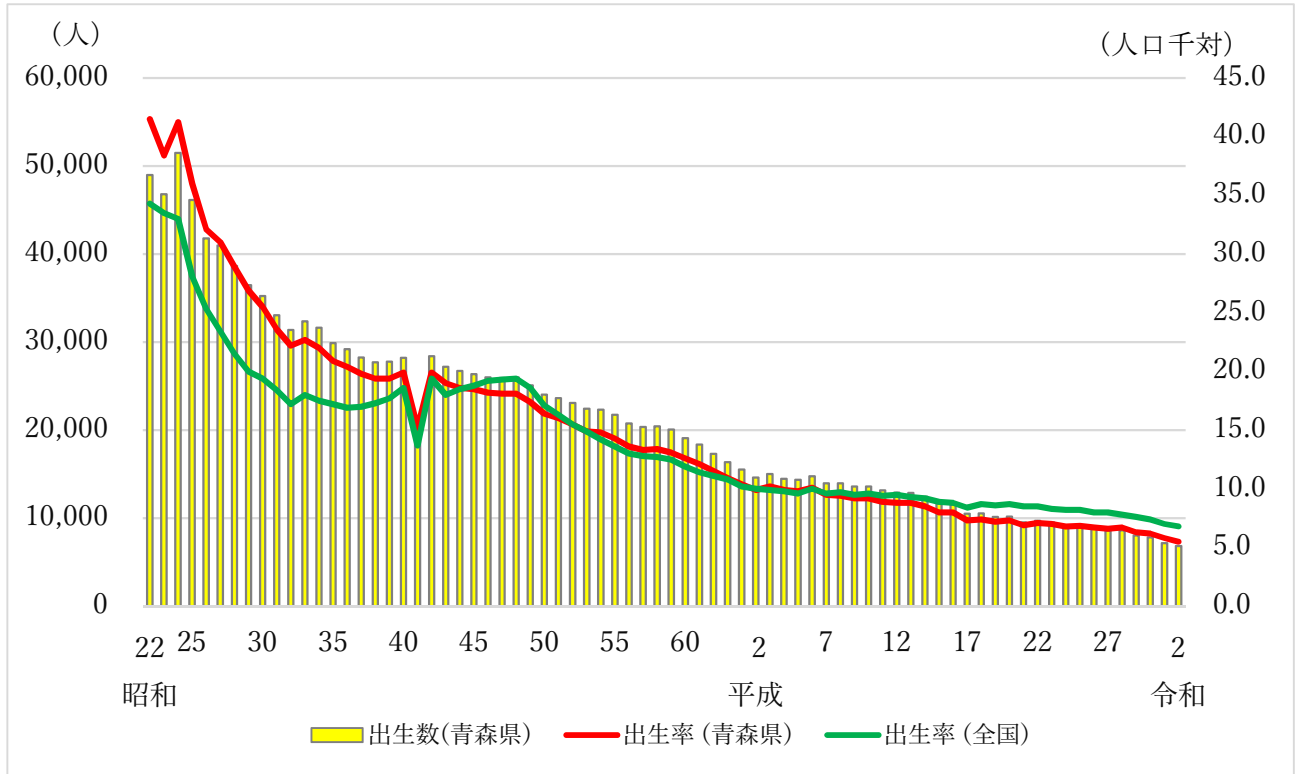
1 出生

(1) 概況及び年次推移

令和2年の出生数は6,837人で、前年の7,170人より333人減少した。出生率（人口千対）は5.5で、前年の5.8を0.3ポイント下回り、全国の6.8を1.3ポイント下回った。（表1）

年次推移をみると、年々減少・低下傾向にあり、昭和24年には出生数が50,000人を超えていたが、昭和50年には25,000人を下回り、平成21年以降は10,000人を割り込んでいる。（図1）

図1 出生数、出生率の年次推移



(2) 地域別出生

令和2年の市部の出生数は5,535人、郡部は1,302人であり、出生率（人口千対）は市部が5.8で郡部の4.8を1.0ポイント上回っている。

詳細は第2章第6表に記載されているので、参照されたい。

(3) 出生順位と母の年齢

令和2年に出生した子（死産を除く）が、子の母の何番目の子に該当するかを表す、出生順位別出生数の構成比は、第1子が43.3%、第2子が36.0%、第3子以上が20.7%となっており、第1子と第2子で全体の約8割を占めている。（第2章第8表参照）

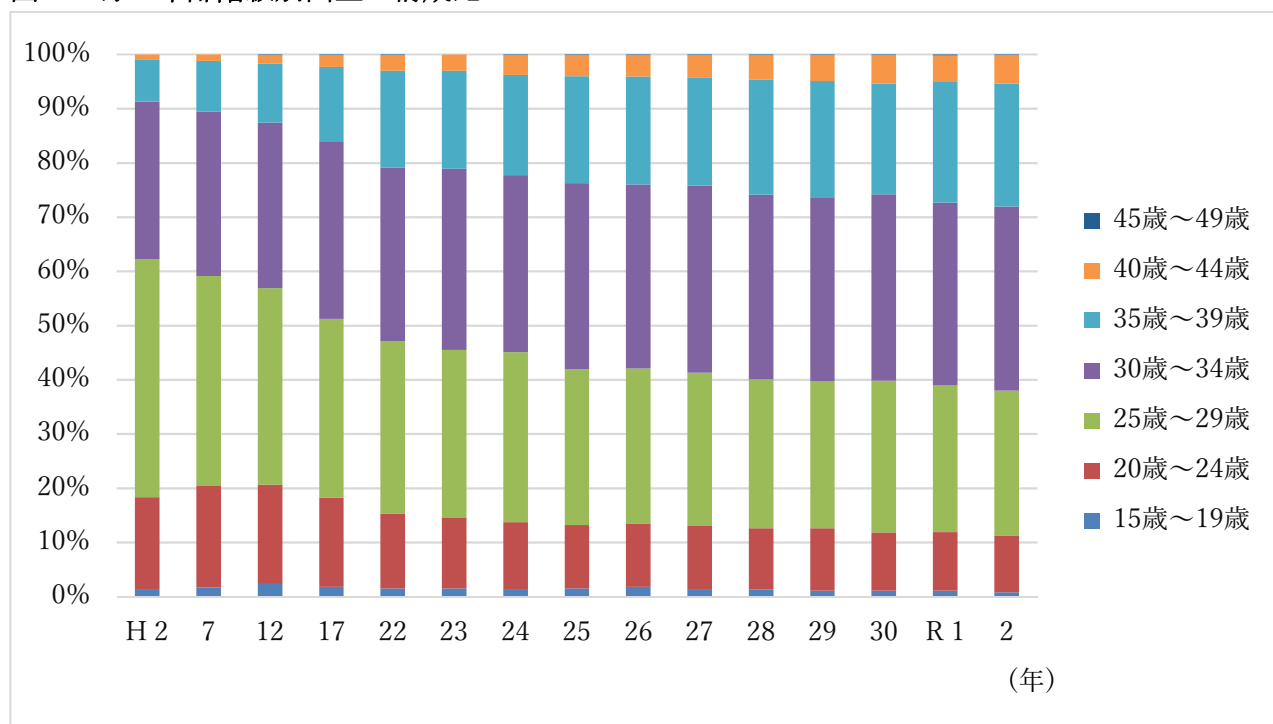
また、令和2年における母の年齢階級別出生の構成比をみると、30歳から34歳が34.0%で最も高く、次いで25歳から29歳が26.8%となっている。（表2）

表2 母の年齢階級別出生の構成比

(単位：%)

母の年齢	H 2	7	12	17	22	23	24	25	26	27	28	29	30	R 1	2
15歳～19歳	1.4	1.7	2.3	1.8	1.5	1.5	1.4	1.5	1.8	1.4	1.3	1.1	1.1	1.1	0.8
20歳～24歳	16.9	18.7	18.3	16.4	13.8	13.1	12.3	11.7	11.7	11.6	11.3	11.5	10.7	10.8	10.4
25歳～29歳	43.9	38.7	36.3	33.0	31.8	30.9	31.4	28.8	28.6	28.3	27.5	27.1	28.0	27.1	26.8
30歳～34歳	29.1	30.4	30.5	32.8	32.0	33.4	32.6	34.3	34.0	34.5	34.1	33.9	34.4	33.7	34.0
35歳～39歳	7.7	9.3	10.9	13.7	17.9	18.1	18.5	19.8	19.9	19.9	21.3	21.4	20.4	22.3	22.7
40歳～44歳	1.0	1.2	1.6	2.2	2.9	3.0	3.7	3.9	4.0	4.2	4.5	4.8	5.3	4.9	5.3
45歳～49歳	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.1

図2 母の年齢階級別出生の構成比

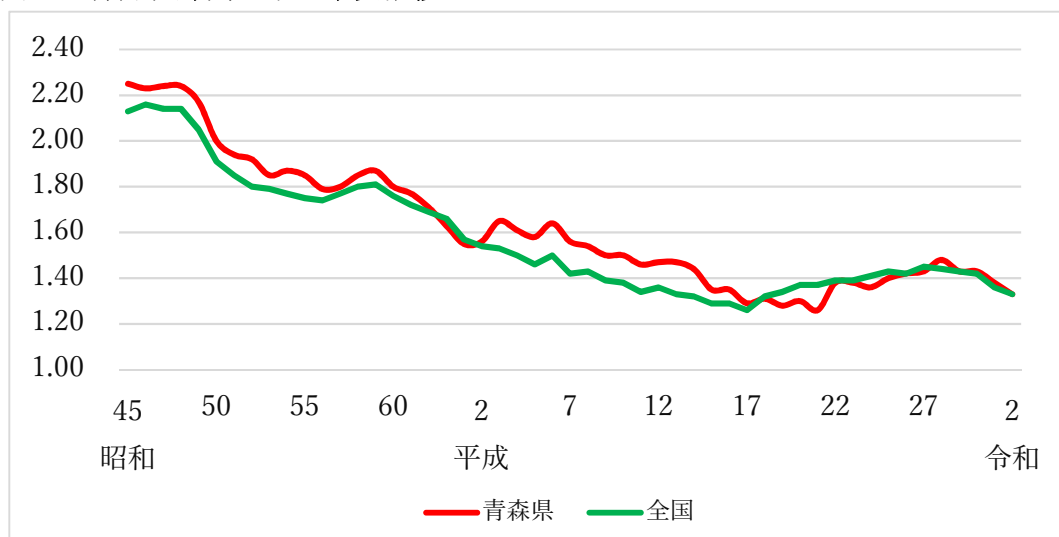


(4) 合計特殊出生率

令和2年の合計特殊出生率は1.33で、前年の1.38より0.05減となり、全国の1.33と同じであった。(表1)

年次推移をみると、年々低下傾向にあり、平成18年から全国平均を下回って推移したが、平成25年から上昇傾向に転じ、平成28年には全国平均を上回った。(図3)

図3 合計特殊出生率の年次推移

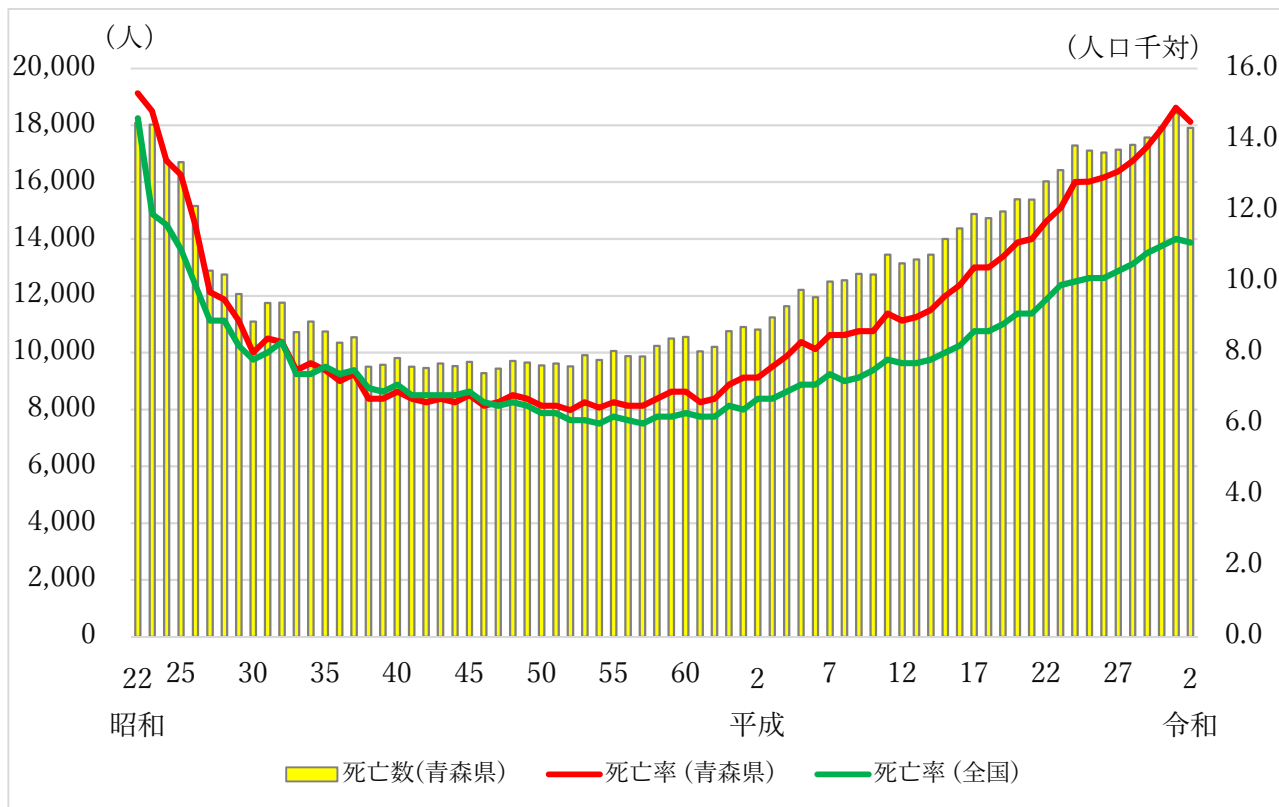


2 死 亡

(1) 概況及び年次推移

令和2年の死亡数は17,905人で、前年の18,424人より519人減少した。死亡率（人口千対）は14.5で、前年の14.9を0.4ポイント下回り、全国の11.1を3.4ポイント上回った。（表1）年次推移をみると、戦後著しく減少・低下し、死亡率は昭和33年には8.0、昭和38年には7.0を下回った後、横ばい傾向になったが、高齢化の進行に伴い、増加・上昇に転じた。（図4）

図4 死亡数及び死亡率の年次推移



(2) 地域別死亡

令和2年の市部の死亡数は13,102人、郡部は4,803人であり、死亡率（人口千対）は市部が13.6で郡部の17.7を4.1ポイント下回っている。

詳細は第2章第13表に記載されているので、参照されたい。

(3) 主要死因

令和2年の死因の第1位は悪性新生物で、死亡数4,988人、死亡率（人口10万対）は404.8となった。第2位は心疾患で、死亡数2,714人、死亡率220.3、第3位は老衰で、死亡数1,606人、死亡率130.3、第4位は脳血管疾患で、死亡数1,455人、死亡率118.1となった。（表3）

表3 死因順位別死亡数、死亡率

（前年比較・全国比較）

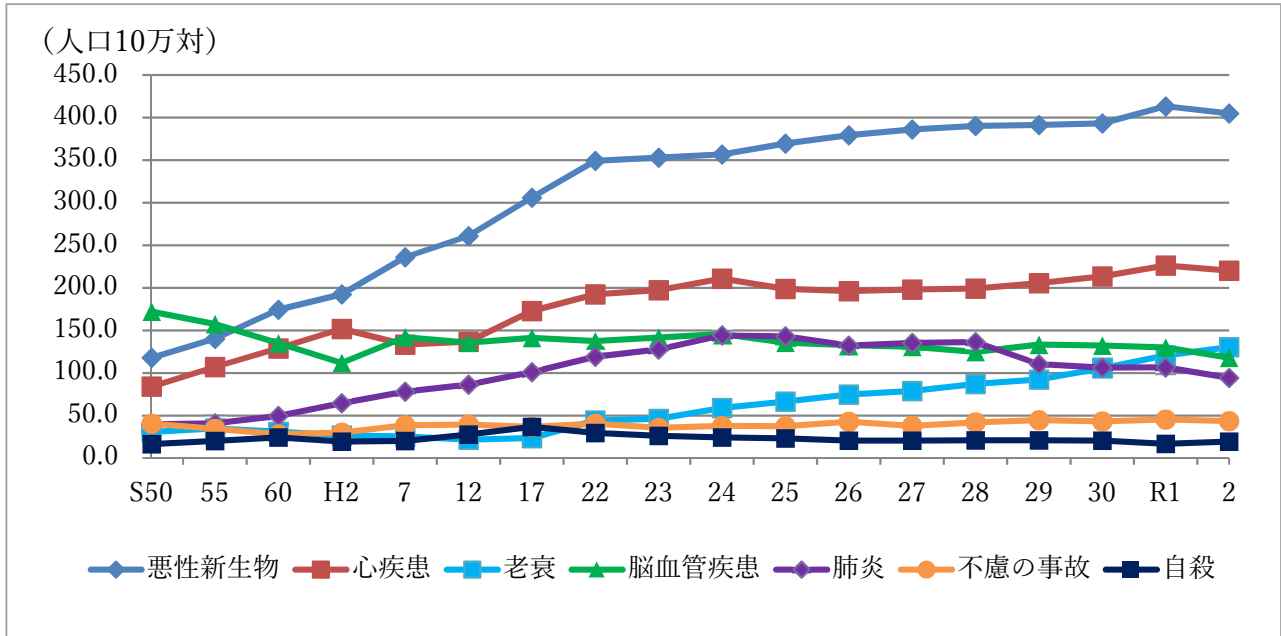
死 因	青森県						全国		
	令和2年			令和元年			令和2年		
	順位	死亡数	率	順位	死亡数	率	順位	死亡数	率
死亡総数		17,905	1,453.1		18,424	1,485.8		1,372,755	1,112.5
悪性新生物	1	4,988	404.8	1	5,125	413.3	1	378,385	306.6
心疾患	2	2,714	220.3	2	2,805	226.2	2	205,596	166.6
老 衰	3	1,606	130.3	4	1,494	120.5	3	132,440	107.3
脳血管疾患	4	1,455	118.1	3	1,611	129.9	4	102,978	83.5
肺炎	5	1,160	94.1	5	1,321	106.5	5	78,450	63.6
不慮の事故	6	534	43.3	6	562	45.3	7	38,133	30.9
腎不全	7	398	32.3	7	430	34.7	8	26,948	21.8
血管性及び詳細不明の認知症	8	387	31.4	9	379	30.6	10	20,815	16.9
誤嚥性肺炎	8	387	31.4	10	351	28.3	6	42,746	34.6
アルツハイマー病	10	381	30.9	8	387	31.2	9	20,852	16.9

（青森県男女比較）

死 因	令和2年					
	男性			女性		
	順位	死亡数	率	順位	死亡数	率
死亡総数		8,942	1,538.7		8,963	1,376.6
悪性新生物	1	2,899	498.9	1	2,089	320.8
心疾患	2	1,228	211.3	2	1,486	228.2
老 衰	5	370	63.7	3	1,236	189.8
脳血管疾患	3	676	116.3	4	779	119.6
肺炎	4	656	112.9	5	504	77.4
不慮の事故	6	320	55.1	8	214	32.9
腎不全	8	204	35.1	9	194	29.8
血管性及び詳細不明の認知症	13	131	22.5	6	256	39.3
誤嚥性肺炎	7	211	36.3	10	176	27.0
アルツハイマー病	11	154	26.5	7	227	34.9

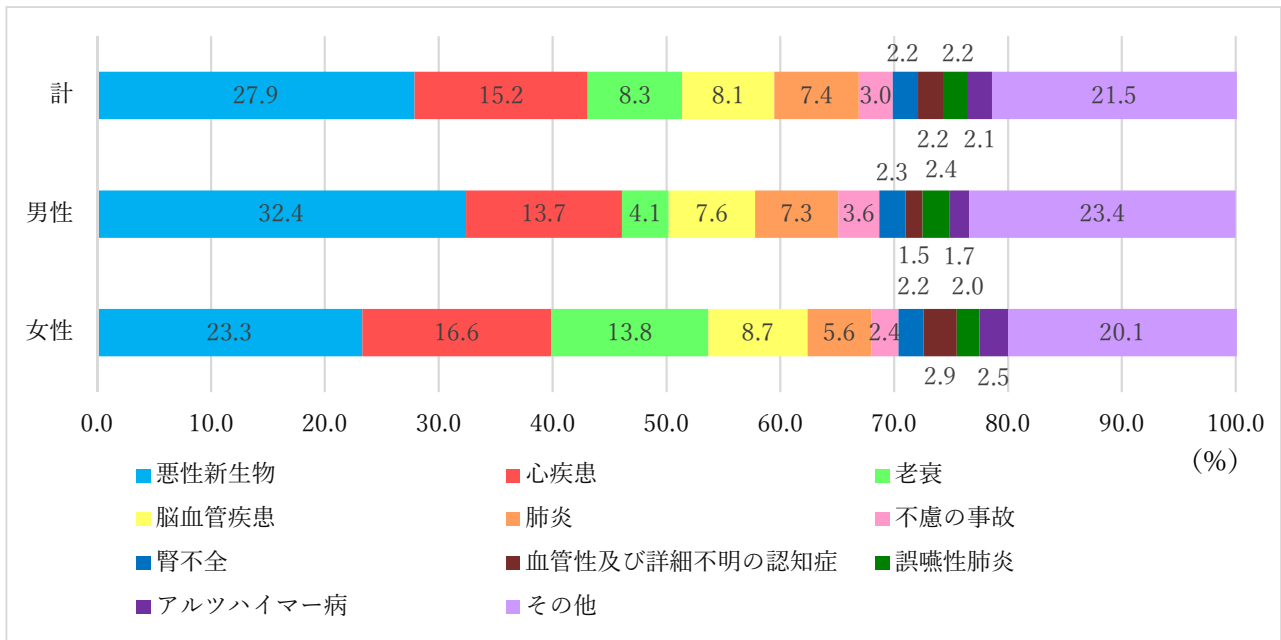
年次推移をみると、昭和50年には、「脳血管疾患」が1位だったが、昭和57年には「悪性新生物」が「脳血管疾患」を上回って1位になり、さらに昭和61年には「心疾患」が「脳血管疾患」を上回り、2位になった。(図5)

図5 主要死因別死亡率の年次推移



死因ごとの構成比をみると、悪性新生物が27.9%、心疾患が15.2%、老衰が8.3%と続き、これら3つの死因で全体の52.0%（前年51.2%）を占めている。(図6)

図6 10大死因の構成比



令和2年の年代別死因順位をみると、20歳代から30歳代までは、自殺が死因第1位であり、40歳代から80歳代までは、悪性新生物が死因第1位となっている。(表4)

表4 年代別死因順位、実数

(上段：死因、下段：実数)

年代	総数 (実数)	1位	2位	3位
0～9歳	26	周産期に発生した病態 10	先天奇形, 変形及び染 色体異常 6	不慮の事故 3
10～19歳	11	不慮の事故 4	悪性新生物 3	自殺 2
20～29歳	52	自殺 24	不慮の事故 9	悪性新生物 4
30～39歳	67	自殺 18	悪性新生物 13	不慮の事故 9
40～49歳	238	悪性新生物 76	心疾患 34	自殺 31
50～59歳	663	悪性新生物 255	心疾患 79	脳血管疾患 52
60～69歳	1,705	悪性新生物 836	心疾患 188	脳血管疾患 115
70～79歳	3,690	悪性新生物 1,494	心疾患 459	脳血管疾患 300
80～89歳	6,797	悪性新生物 1,766	心疾患 1,082	脳血管疾患 590
90～99歳	4,399	老衰 1,002	心疾患 808	悪性新生物 529
100歳～	257	老衰 104	心疾患 54	脳血管疾患 15

3 乳児死亡、新生児死亡及び周産期死亡

(1) 乳児死亡

令和2年の乳児死亡数は18人で、前年の23人より5人減少した。乳児死亡率（出生千対）は2.6で、前年の3.2を0.6ポイント下回り、全国の1.8を0.8ポイント上回った。（表1）

死亡の原因の内訳をみると、「周産期に発生した病態」、「先天奇形、変形及び染色体異常」が多い。（表5）

図7 乳児死亡数及び乳児死亡率の年次推移

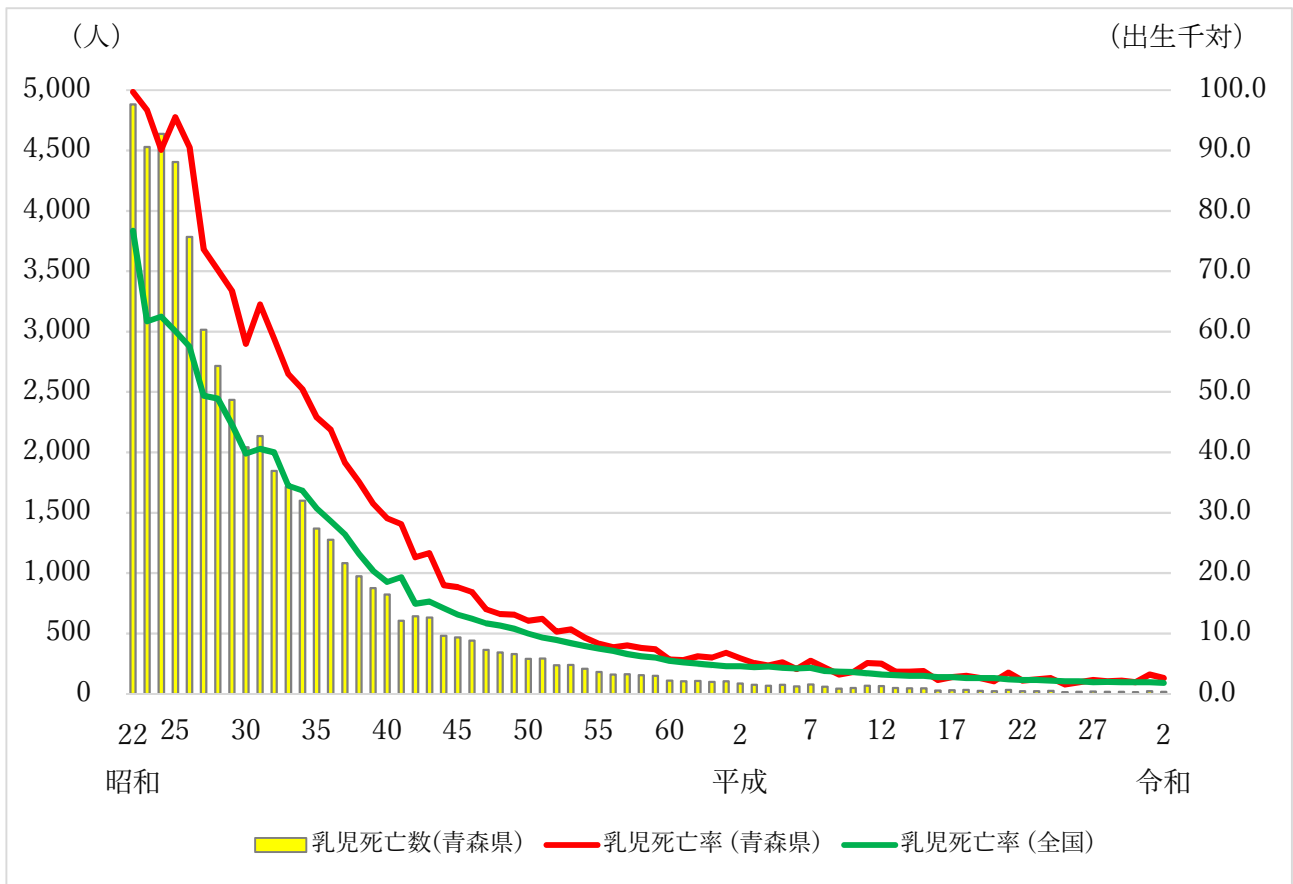


表5 乳児死亡の内訳の年次推移

死亡の内訳	平成25年	26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	令和2年
総計	14	17	20	18	18	15	23	18
周産期に発生した病態	4	3	7	6	6	5	12	10
先天奇形、変形及び染色体異常	5	8	7	5	7	7	3	5
乳幼児突然死症候群	2	2	1	-	-	-	2	1
その他	3	4	5	7	5	3	6	2

(2) 新生児死亡

令和2年の新生児死亡数は15人で、前年の15人と同数となった。新生児死亡率（出生千対）は2.2で、前年の2.1を0.1ポイント上回り、全国の0.8を1.4ポイント上回った。（表1）

死亡の原因の内訳をみると、「先天奇形、変形及び染色体異常」、「周産期に発生した病態」が多い。（表6）

図8 新生児死亡数及び新生児死亡率の年次推移

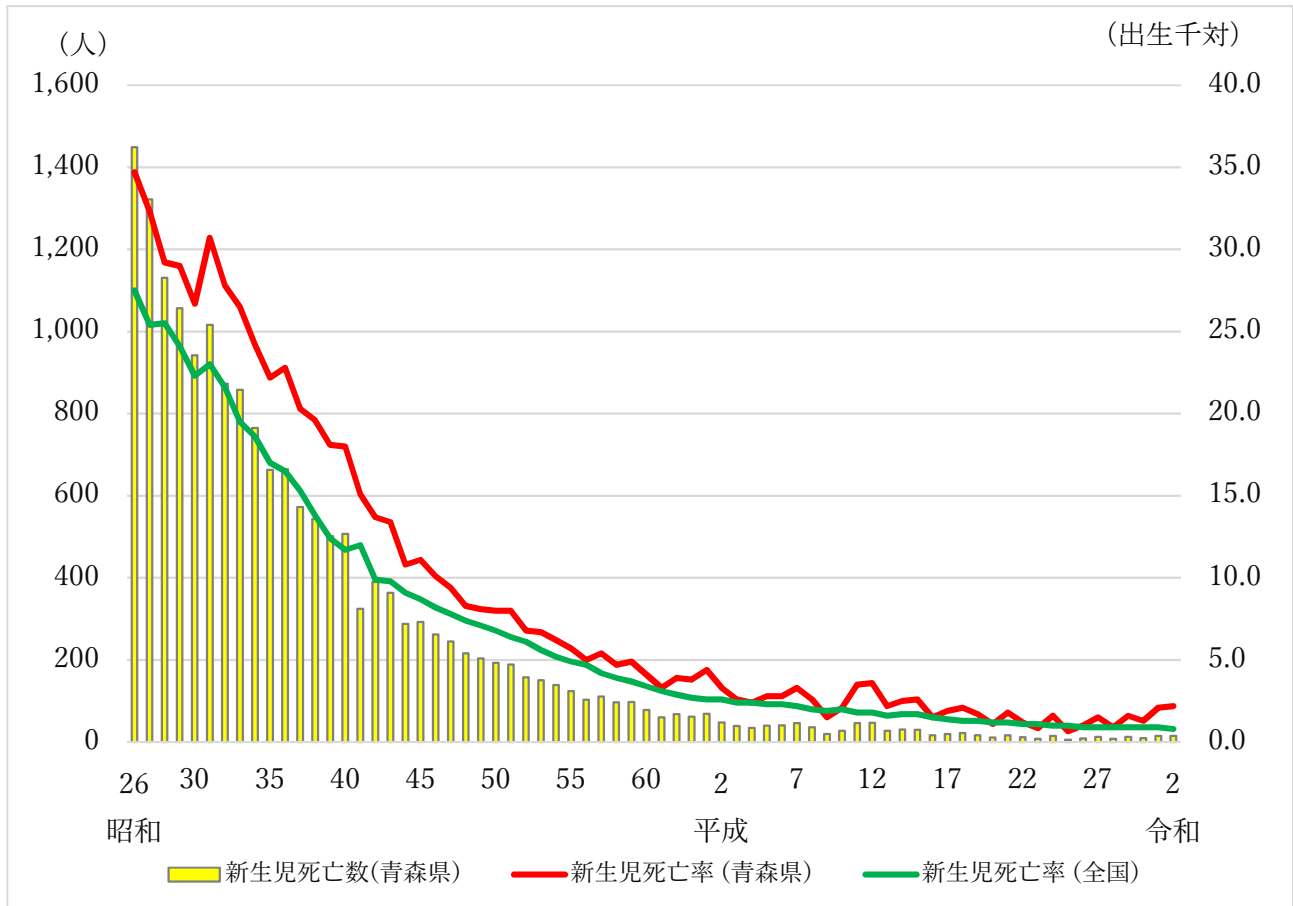


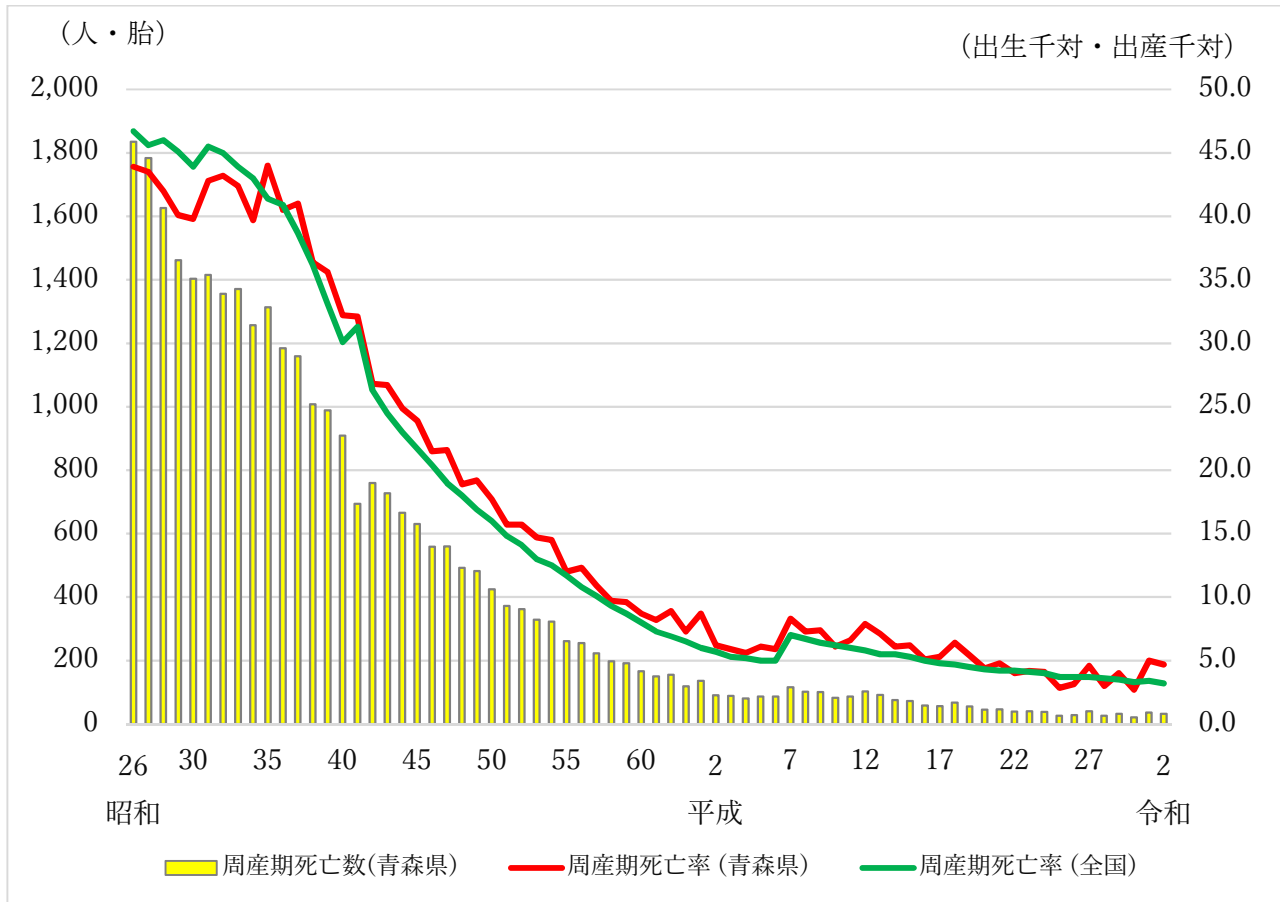
表6 新生児死亡の内訳の年次推移

死因の内訳	平成25年	26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	令和2年
総計	6	9	13	8	13	10	15	15
周産期に発生した病態	2	3	7	6	6	4	12	10
先天奇形、変形及び染色体異常	4	5	5	2	4	5	3	5
乳幼児突然死症候群	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	-	1	1	-	3	1	-	-

(3) 周産期死亡

令和2年の周産期死亡数は32件（妊娠満22週以後の死産17胎、早期新生児死亡15人）で、前年の36件（同25胎、同11人）より4件（同8胎減、同4人増）減少した。周産期死亡率（出産（出生+妊娠満22週以後の死産）千対）は4.7で、前年の5.0を0.3ポイント下回り、全国の3.2を1.5ポイント上回った。（表1）

図9 周産期死亡数及び周産期死亡率の年次推移



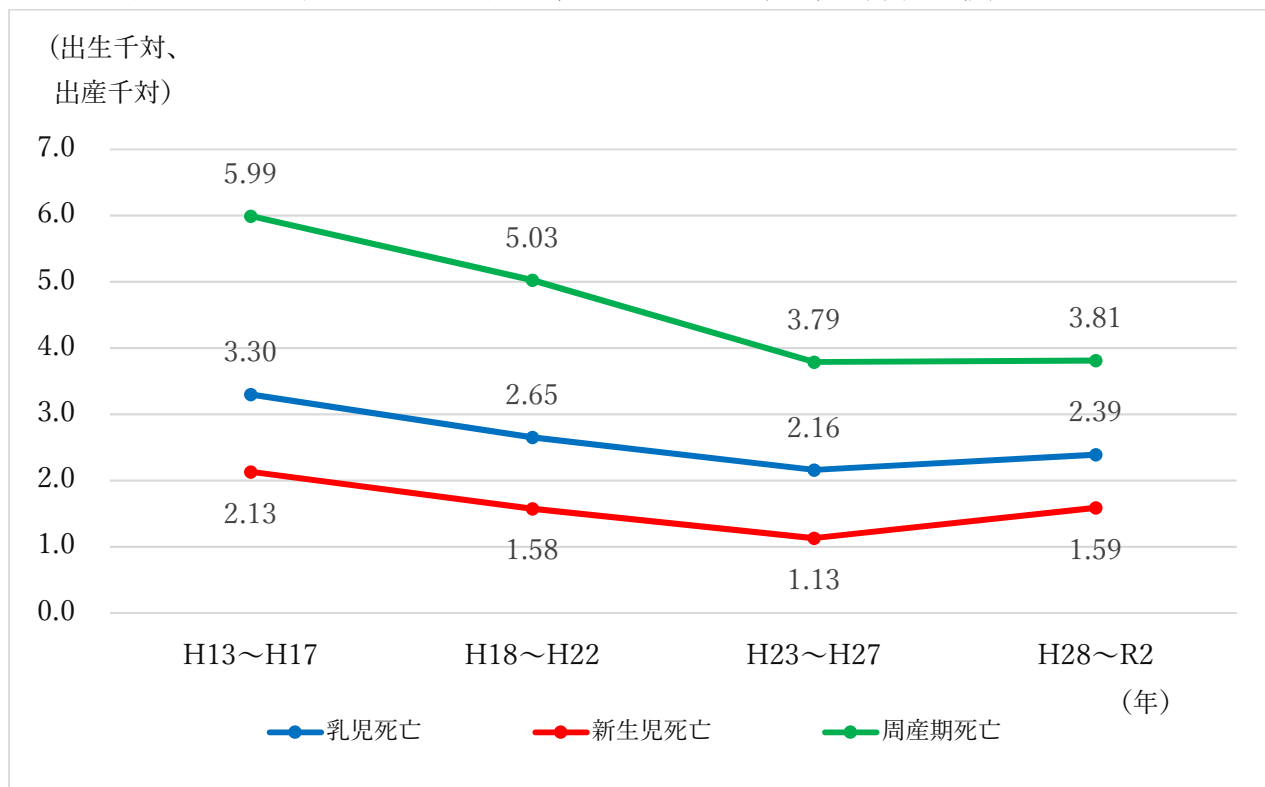
※ 周産期死亡については、死亡数、死亡率の算定方法が平成6年以前と平成7年以降では異なっている。

	死亡数	死亡率
平成6年以前	妊娠満28週以後死産 + 早期新生児	出生千対
平成7年以降	妊娠満22週以後死産 + 早期新生児	出産千対（出生+妊娠満22週以後死産）

(4) 5か年比較

乳児死亡、新生児死亡、周産期死亡とも対象数が少ないため実数1件の増減による死亡率への影響が大きいことから、それぞれの死亡率を5年単位で比較すると、乳児死亡、新生児死亡、周産期死亡のいずれも低下傾向が続いていたが、平成28年から令和2年までの5年単位では増加した。(図10)

図10 乳児死亡率・新生児死亡率・周産期死亡率の5か年比較（年次推移）

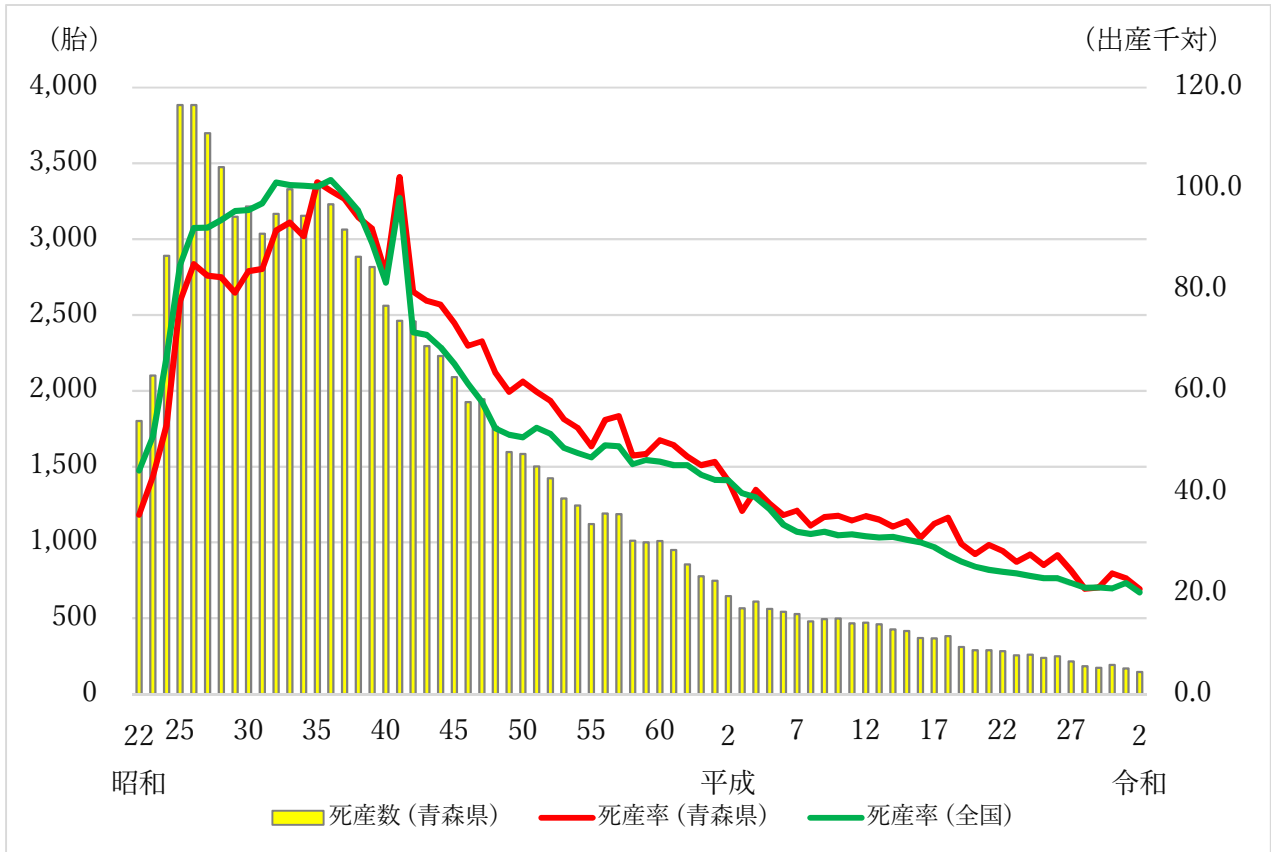


4 死産

令和2年の死産数は145胎（自然死産87胎、人工死産58胎）で、前年の168胎（同88胎、同80胎）より23胎（同1胎減、同22胎減）減少した。死産率（出産（出生＋死産）千対）は20.8で、前年の22.9を2.1ポイント下回り、全国の20.1を0.7ポイント上回った。（表1）

年次推移をみると、死産数は昭和25年をピークに減少傾向にあるが、死産率は昭和35年をピークに減少に転じ、昭和41年（ひのえうま年）には急激時上昇したが、その後は減少傾向が続いている。（図11）

図11 死産数及び死産率の年次推移



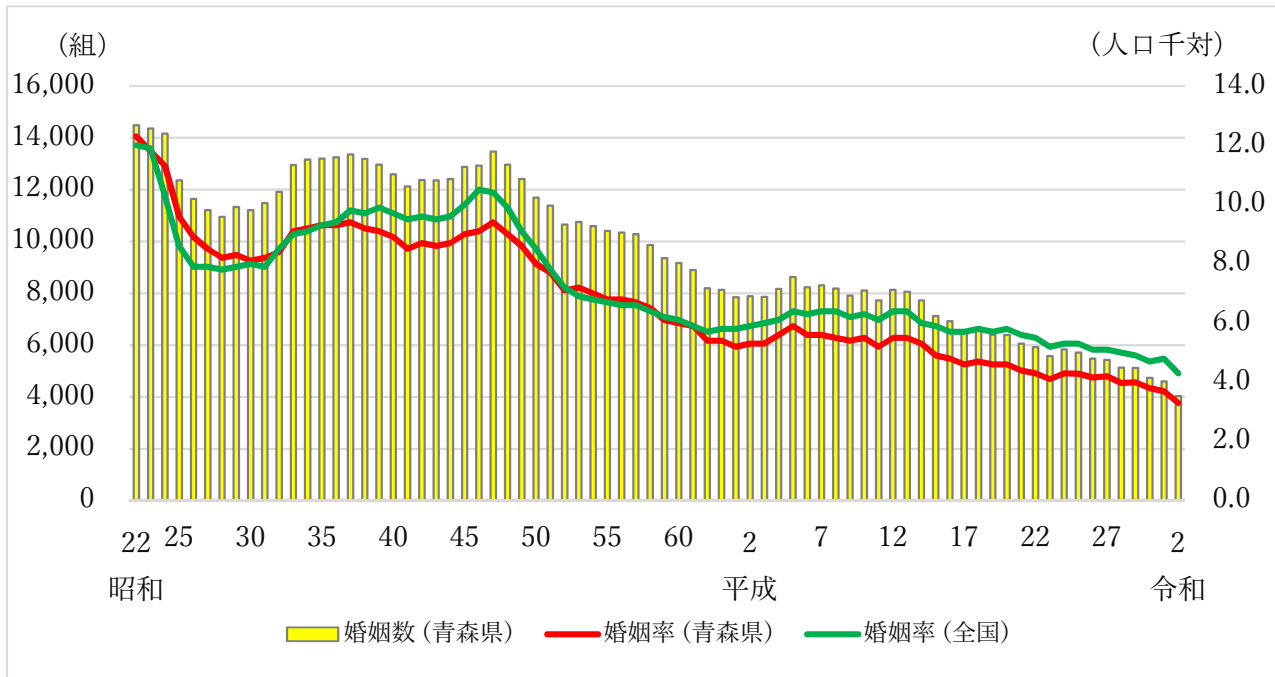
5 婚姻

(1) 概況及び年次推移

令和2年の婚姻件数は4,032組で、前年の4,601組より569組減少した。婚姻率（人口千対）は3.3で、前年の3.7を0.4ポイント下回り、全国の4.3を1.0ポイント下回った。（表1）

年次推移をみると、昭和25年以降横ばいで推移していたが、昭和48年以降減少・低下傾向を示している。（図12）

図12 婚姻数及び婚姻率の年次推移

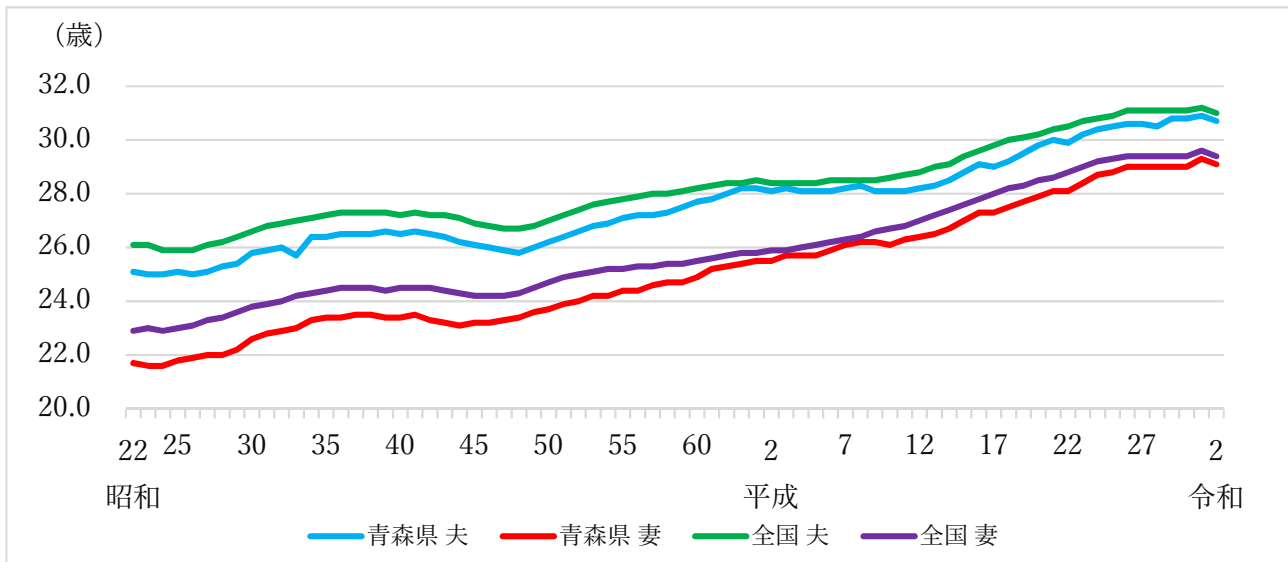


(2) 平均初婚年齢

令和2年の平均初婚年齢は、男性が30.7歳（全国31.0歳）、女性が29.1歳（全国29.4歳）で、男性は前年の30.9歳（全国31.2歳）を0.2歳下回り、女性は前年の29.3歳（全国29.6歳）を0.2歳下回った。（図13）

年次推移をみると、男女とも年々上昇している。

図13 平均初婚年齢の年次推移



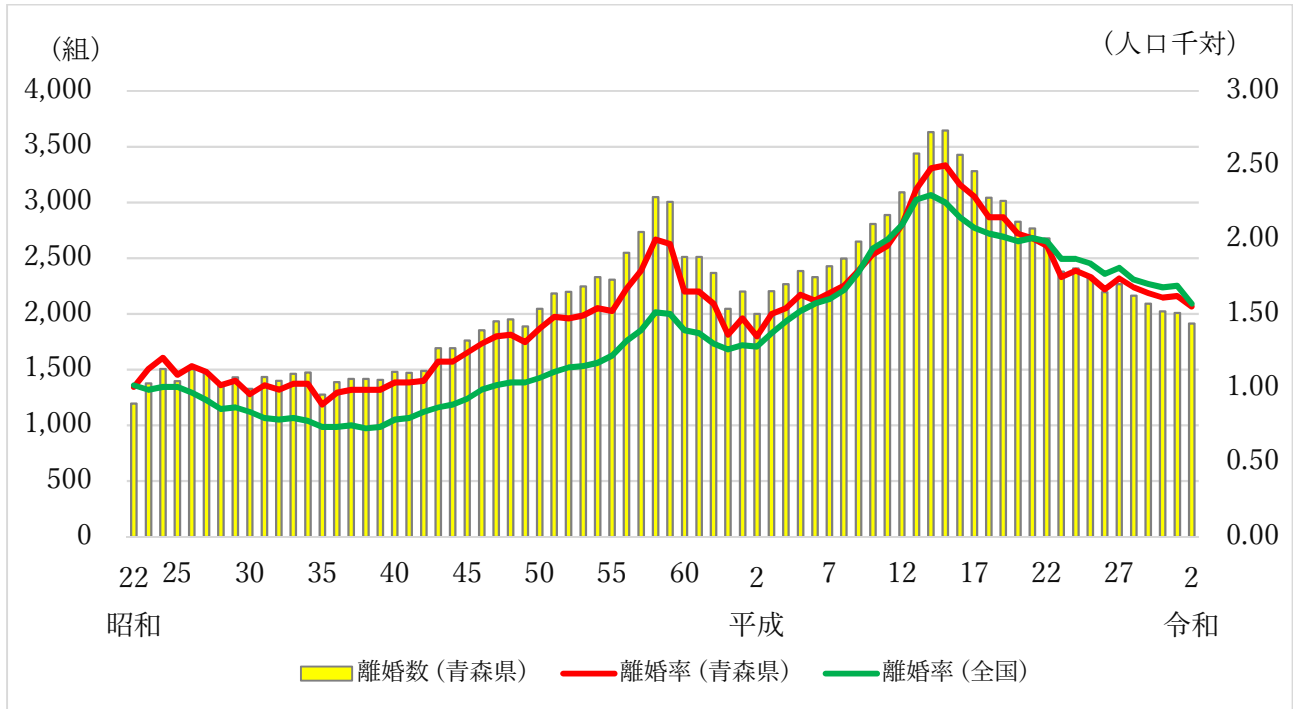
6 離婚

(1) 概況及び年次推移

令和2年の離婚件数は1,915組で、前年の2,009組より94組減少した。離婚率（人口千対）は1.55で、前年の1.62を0.07ポイント下回り、全国の1.57を0.02ポイント下回った。（表1）

年次推移をみると、戦後横ばい状態が続いたが、昭和40年代に入り増加・上昇し、昭和58年をピークに減少・低下傾向に転じた。その後、平成3年から再び増加・上昇したものの、平成16年から減少・低下傾向となっている。（図14）

図14 離婚数及び離婚率の年次推移



(2) 離婚した夫婦の同居期間

令和2年の離婚件数1,915組のうち、結婚5年未満で離婚した件数の構成比は29.8%で最も多く、次いで20年以上の25.3%、5～10年の18.2%の順となっている。（表7）

表7 離婚件数、同居期間別構成比

(単位：%)

同居期間	H7年	12年	17年	22年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	R1年	2年
0～5年	36.4	36.7	32.1	29.0	32.8	30.9	31.8	29.8	32.1	33.2	31.5	31.3	29.8
1年未満	7.1	6.5	5.3	6.1	5.6	6.5	5.1	5.8	4.9	6.2	5.6	6.1	4.6
1～2年	9.3	8.4	7.3	8.2	6.9	7.9	6.4	7.2	6.4	7.1	6.9	6.9	6.8
2～3年	8.2	7.7	7.5	6.6	6.6	6.7	6.8	7.7	6.8	7.4	6.8	6.9	7.3
3～4年	6.1	7.9	6.7	5.7	5.8	6.1	6.0	5.8	6.0	6.9	6.1	5.4	5.9
4～5年	5.8	6.2	5.3	6.2	6.0	4.6	5.6	5.6	5.0	5.6	6.1	5.9	5.3
5～10年	19.0	22.4	23.0	22.2	20.6	20.4	22.1	21.3	19.1	19.0	20.0	19.4	18.2
10～15年	13.2	11.0	13.9	13.7	14.6	14.6	12.3	14.3	13.5	12.2	13.3	13.7	12.6
15～20年	11.0	8.5	9.9	10.2	10.9	11.3	12.0	11.1	10.6	11.1	11.5	11.4	10.5
20年以上	18.9	18.1	19.2	20.1	18.0	20.0	19.0	20.2	21.3	21.3	20.4	22.1	25.3
不詳	1.5	3.4	2.0	4.7	3.0	2.7	3.0	3.2	3.4	3.2	3.3	2.1	3.6

第2 医療統計の概要

1 医療施設

(1) 病院

令和2年10月1日現在の病院数は94施設で、前年と同数であった。人口10万対では7.6で、前年の7.5を0.1ポイント上回り、全国の6.5を1.1ポイント上回った。

病院数は、昭和58年の124施設をピークにその後減少傾向にある。(図1)

(2) 一般診療所

令和2年10月1日現在の一般診療所数は862施設で、前年の877施設から15施設減少した。人口10万対では69.6で、前年の70.4を0.8ポイント下回り、全国の81.3を11.7ポイント下回った。

そのうち、有床診療所は130施設で、前年の137施設から7施設減少し、診療所全体の約15.1% (全国6.1%) となっている。

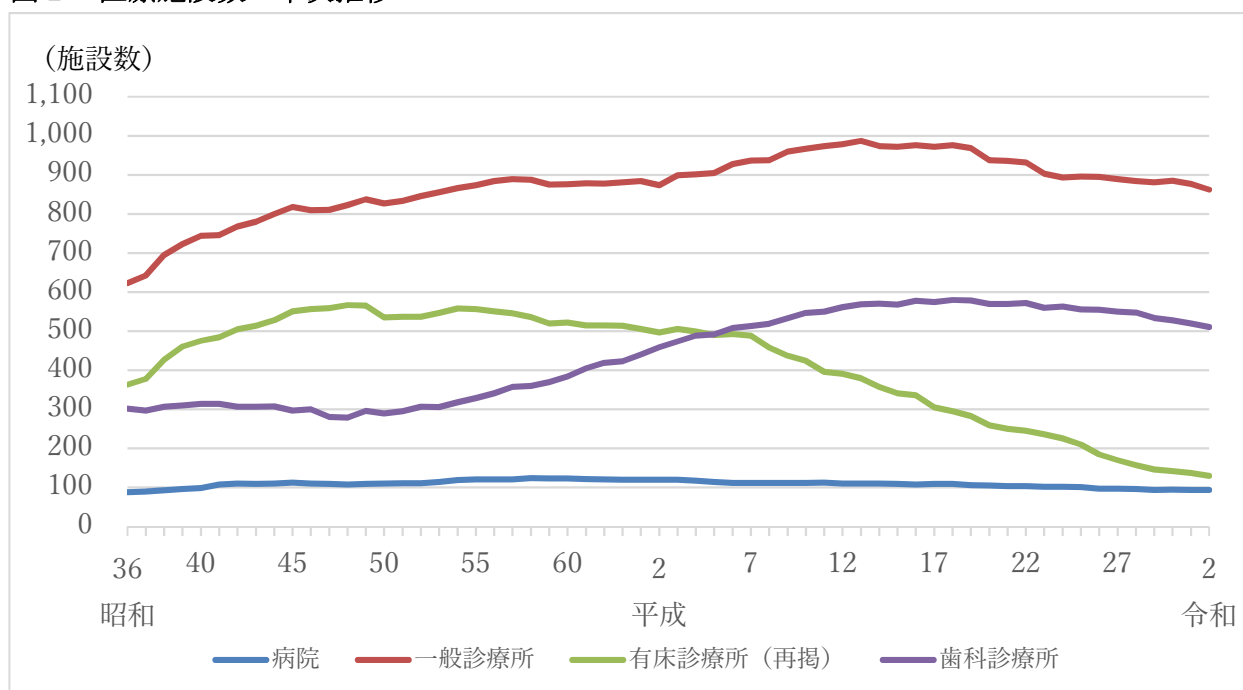
総数は平成13年の987施設、有床診療所は昭和48年の567施設をピークにその後減少傾向にある。(図1)

(3) 歯科診療所

令和2年10月1日現在の歯科診療所数は511施設で、前年の520施設から9施設減少した。人口10万対では41.3で、前年の41.7を0.4ポイント下回り、全国の53.8を12.5ポイント下回った。

歯科診療所数は、平成18年の580施設をピークにその後減少傾向にある。(図1)

図1 医療施設数の年次推移



2 医師・歯科医師・薬剤師

(1) 医師

令和2年12月31日現在の医師数は2,773人であり、前回調査の平成30年(2,712人)から、61人増加している。また、人口10万対では224.0であり、前回(214.7)に比べ、9.3ポイント上回り、全国値である269.2を45.2ポイント下回った。(表1)

表1 医師数(実数、人口10万対)の年次推移

(単位:人)

区分		平成12年	14年	16年	18年	20年	22年	24年	26年	28年	30年	令和2年
青森県	医師数	2,516	2,564	2,522	2,561	2,563	2,636	2,639	2,681	2,702	2,712	2,773
	人口10万対	170.5	174.5	173.7	180.0	184.1	191.9	195.5	203.0	209.0	214.7	224.0
全国	医師数	255,792	262,687	270,371	277,927	286,699	295,049	303,268	311,205	319,480	327,210	339,623
	人口10万対	201.5	206.1	211.7	217.5	224.5	230.4	237.8	244.9	251.7	258.8	269.2

(2) 歯科医師

令和2年12月31日現在の歯科医師数は735人であり、前回調査の平成30年(740人)から、5人減少している。また、人口10万対では59.4であり、前回(58.6)に比べ、0.8ポイント上回り、全国値である85.2を25.8ポイント下回った。(表2)

表2 歯科医師数(実数、人口10万対)の年次推移

(単位:人)

区分		平成12年	14年	16年	18年	20年	22年	24年	26年	28年	30年	令和2年
青森県	歯科医師数	717	758	757	777	789	781	787	780	762	740	735
	人口10万対	48.6	51.6	52.1	54.6	56.7	56.9	58.3	59.0	58.9	58.6	59.4
全国	歯科医師数	90,857	92,874	95,197	97,198	99,426	101,576	102,551	103,972	104,533	104,908	107,443
	人口10万対	71.6	72.9	74.6	76.1	77.9	79.3	80.4	81.8	82.4	83.0	85.2

(3) 薬剤師

令和2年12月31日現在の薬剤師数は2,345人であり、前回調査の平成30年(2,306人)から、39人増加している。また、人口10万対では189.4であり、前回(182.6)に比べ、6.8ポイント上回り、全国値である255.2を65.8ポイント下回った。(表3)

表3 薬剤師数(実数、人口10万対)の年次推移

(単位:人)

区分		平成12年	14年	16年	18年	20年	22年	24年	26年	28年	30年	令和2年
青森県	薬剤師数	1,556	1,684	1,724	1,796	1,882	2,012	2,052	2,111	2,210	2,306	2,345
	人口10万対	105.4	114.6	118.7	126.2	135.2	146.5	152.0	159.8	170.9	182.6	189.4
全国	薬剤師数	217,477	229,744	241,369	252,533	267,751	276,517	280,052	288,151	301,323	311,289	321,982
	人口10万対	171.3	180.3	189.0	197.6	209.7	215.9	219.6	226.7	237.4	246.2	255.2